令和4年度　大田区立馬込第三小学校　自己評価　報告書

令和5年3月10日

○　本校の概要

◇児童数779名、25学級で、特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
◇PTA活動、お父さんの会、同窓会活動が非常に盛んで児童の健全育成にすすんで関わっている。令和元年度に開校80周年事業を成功させ、「チーム馬三」としての連携がさらにすすんでいる。
◇学習場面では、一人一人が自らの考えをもって言語活動を通して交流する過程を重視し、主体的に学びに向かう力の育成を図っている。
◇縦割り班を活用した児童集会・なかよし給食・なかよし遊び等の異学年交流を通して、集団や社会における人間関係形成力の向上を図っている。
◇「運動大好き馬三の子」を目指して、「馬三元気アップタイム」等を計画的に行い、体力向上に努めている。
◇今年度から本校に学校運営協議会が設置され、大田区コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進めていく。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	児童向けに行うアンケートで「勉強が好き」と回答した児童の割合 （令和3年度の割合は83．2%、令和2年度の割合は84．9%）	4：88%以上 3：84%以上88%未満 2：80%以上84%未満 1：80%未満	1	○高学年の外国語科と、4年生の外国語活動の指導は、主に外国語専科と外国語教育指導員の2名体制で行っている。3年生以下の外国語活動は、担任と外国語教育指導員が連携して指導している。 ○タブレット端末を活用した授業づくりを工夫している。効果的な活用方法を共有し、授業改善に役立てている。 ○児童アンケート（780名中714名回答で回答率は91．5%）で「勉強が好き」と回答した児童の割合は78．3%だった。そのため、成果評価は残念ながら今年度は1の段階まで下がってしまった。昨年度よりも4．9ポイントも低い。児童アンケートを始めた5年前の82．2%から2年連続して大幅に上昇して令和元年度には88．4%になったが、3年連続で下降する結果となり、今年度は過去最低となってしまった。 ○コミュニケーション能力の向上の重要性は、学校運営協議会でも話題になっている。一人で考えたり、グループで意見交換したり、全体で話し合ったり、発表したりする時間などの学習場面を設定し、自ら考え、すすんで表現することができるような力を伸ばしていく。また、ゲストティーチャーによる指導や、体験的な学習も意図的に組み込みながら、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を高める工夫を続けていく。	A	11	○「勉強が好き」という子供たちが78%もいれば充分な気もしますが、目標値が高いため結果的に評価は「1」になってしまったことと思います。 ○「勉強が好き」と回答した児童が8割近く存在することがすばらしいと思います。努力義務として高い理想を掲げることもすばらしいです。数ポイントの減少で工夫を継続していただけるのならすばらしいことだと思います。 ○タブレット端末を活用した授業の際に、教師ごとにITスキルにばらつきが出てきてしまうのは望ましくないように感じる。これはITスキルに限ったことではないが、各教師の持っているスキル、授業テクニックをクラスや学年を横断して共有できる機会をつくるべきだ。（教師同士の日常としての授業公開）それぞれの成功体験だけでなく、失敗の経験も話すことで、次回につなげることができる。また、現在抱えている問題を共有することで、教師一人一人が抱え込んでしまうことを防げるのではないか。そうした取組の結果が子供たちの「勉強が好き」という回答に結びついてくれればうれしい。 ○コロナの影響がコミュニケーションの能力の向上に重要にかかわっていると感じます。子供たちも話したいと思っていても、給食等黙食をしっかり守り感染予防に協力していたと思います。来年度より、マスクを外すことも多くなると思うので、改善されると思います。 ○今年度からタブレット端末を使って児童アンケートを実施した。調査方法の変化も回答に影響を与えていると思われる。タブレット端末の活用方法としては評価できるので、引き続き次年度も活用してもらいたい。 ○展覧会「馬三アート」では、個人の作品だけでなく、共同装飾にも力を入れるなど工夫していました。 ○タブレット端末は、引き続き様々な学習場面で活用しています。 ○ゲストティーチャーによる指導や、体験的な活動を取り入れ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を高める工夫を続けているなど、大いに評価できる。 ○「取組評価」と「成果評価」で互いの立場での感じ方に隔たりを感じる結果とはなりましたが、ICT機器（タブレットなど）を活用しての授業もまだ過渡期かと思います。学校・児童共に「不慣れさ」があると思うので、活用が進んでくると成果も変わってくるものと考えます。 ○外国語教育には更に力を入れてください。 ○目標に対する取組は適切に実施されていたと思います。目標に対する成果指標は、プラン1よりプラン2の指標とした方がよいように感じます。成果指標がアンケート以外でよいのであれば、英語検定や統計力検定、ICT活用力の検定、読書量など、数として測定できる指標とするのであれば、そういった結果を保護者に見せた上、評価いただいた指標とすることがよいように感じます。 ○情報活用やコミュニケーション力という点では、タブレット活用能力や発表する力、発表内容をまとめる力、人の話を聞いて意見を言う力など、しっかり身に付けさせる授業に取り組まれていたと感じます。 ○ともに生きる力という点では、他者を助けたり思いやったりする行動に焦点を当てるような働きかけを取り入れてみるのもよいのではと思いました。（友達同士のありがとうカードなど） ○自分から学習に取り組みたい、勉強が楽しいと思えるようにしていく施策として、2月16日の大田区教育研究発表会で紹介されていた馬込小の家庭教育DXが、とても子供たちのやる気を引き出しそうだと感じました。是非馬三でも取り入れていただけたらと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		読書学習司書と連携して、児童の発達段階に応じた読書活動の充実と、読解力の向上を図る。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4	保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目の回答でのA評価（4段階で最上位）の割合 （令和3年度の割合は48．9%、令和2年度の割合は45．9%）	4：49%以上 3：45%以上49%未満 2：40%以上45%未満 1：40%未満	1	○授業改善推進プランは、学力向上部を中心に、全教科部会で検討し、夏季休業中に作成した。課題等を明らかにして2学期以降の授業改善に生かしている。 ○水曜補習は、3・4年の週と5・6年の週に分け、原則隔週で算数の指導を行った。土曜補習は土曜授業に合わせて、年6回実施することができた。 ○保護者アンケート（780名中582名回答で回答率74．6%）の「学校は学習内容を身に付けさせている」の回答でのA評価（4段階で最上位）の割合は39．6%だった。昨年度と比べると、9．3ポイントも下がり、成果評価は1段階にまで急落した。また、肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合で見ても、今年度は93．9%に留まり、昨年度の97．2%よりも3．3ポイント下がっている。 ○残念ながら今年度は学習に落ち着いて取り組むことが難しい状態の学級が複数あったため、学習内容が十分には身に付いていないと感じられたと考えられる。 ○学習規律を再確認し、安心して学習に取り組むことができる教室環境を整える。その上で、学力向上の取組を粘り強く続けていく。	A	9	○年ごとに児童は入れ替わり、児童の成長や家庭環境も違う。先生たちの努力と工夫には感謝すべきだと思います。 ○純粋に人手不足が影響しているように感じる。先生たちの負担を少しずつでも軽減できるよう、支援員や補助員の様な人材を積極的に活用していくのがよいと感じる。学習に落ち着いて取り組むことが難しい状態の学級を減らすために、保護者への周知を積極的に行い、改めて家族単位で学習規律の再確認を促すべきだと思う。 ○学校経営計画に、いじめに関する取組を入れる。 ○読み聞かせに伺うと、クラスによって集中力のばらつきがあるものの、全体としては話を聞く姿勢、態度ともによいと感じています。来年度以降は、工事が本格的に始まるので、懸念材料ではあるものの、学力向上の取組を粘り強く続けていく方針は重要と思います。 ○成果評価は「1」となってしまったが、肯定的評価は93．9%である。昨年度97．2%より3．3ポイント低いが、依然高い水準であることを評価したい。 ○水曜補習・土曜補習を着実に実施している。 ○保護者アンケート意見書中にも多く書かれている「一部の教室で落ち着いた授業ができていない」ことが、保護者同士でうわさ話的に広まり、結果に表れている気がします。（つまり、直接的に「学力が付いていない」とする評価ではない。） ○「学習規律を再確認し、安心して学習に取り組むことができる教室環境を整える。その上で、学力向上の取組を粘り強く続けていく。」という改善策を引き続き進めていただきたいと感じます。 ○保護者アンケートではポイントが若干下がったが、先生方は努力していると思います。負けずに。 ○目標に対する取組は適切に実施されていたと思います。授業自体が成り立たない場面があったということは残念に思います。 ○子供たちがどこが得意でどこが不得手で何を頑張ればよいかということが、学習カルテやステップ学習チェックで、本人や保護者にフィードバックされているかと思いますが、紙だと一時的になったり、リアルタイム性に乏しかったりするため、タブレットやまなびポケットなどのツールを介して、担任と保護者と相互に連携できるような形になるとよいかと思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		東京ベーシックドリル（算数）を活用し、基礎基本の定着を図る。	4：全教員が活用した。 3：90%以上の教員が活用した。 2：80%以上の教員が活用した。 1：活用した教員が80%以下であった。。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「お子さんは、楽しく学校生活を送っている」の項目の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合 （令和3年度の割合は95．4%、令和2年度の割合は96．6%）	4：96%以上 3：93%以上96%未満 2：90%以上93%未満 1：90%未満	3	○いじめ防止については、基本方針に沿って学校全体で取り組んでいる。未然防止のための対応だけでなく、早期発見のために、いじめにつながりそうな事案も含めて、情報共有を行っている。 ○問題行動が見られる児童に関しては、個別に対応策を検討し、保護者と情報を共有して取り組んでいる。 ○落ち着いて学習に取り組むことが難しい学級については、担任だけでなく、教員や支援員・補助員などを割り振り、複数で指導する体制を取っている。 ○不登校・登校渋りに該当する児童が増えているため、個別に対応策を練ってきた。別室登校を希望する児童も増えたため、保健室や校長室で学習する体制も組んだ。 ○保護者アンケート（780名中582名回答で回答率74．6%）の「お子さんは、楽しく学校生活を送っている」の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合は93．9%だった。成果指標の段階は3であるが、昨年度と比べると1．5ポイント下回り、2年連続での下降となってしまった。 ○道徳教育については、道徳科の指導教諭を中心に授業改善を進め、道徳指導の充実を図る。 ○問題行動に対しては、学校生活調査や学級集団調査などの結果を活用するとともに、毎週行っている生活指導夕会での情報共有などをもとに、早期発見・早期対応を意識して組織的な対応を心がける。 ○不登校・登校渋りに対しては、児童の気持ちにより添いながら、保護者や関係機関と連携して対応を続けていく。	A	9	○世の中の多様性からくるのか、子供たちの状況も様々となり、学校生活は当たり前でなくなってきている中、93%以上を維持しているのはすばらしいと感じる。 ○人と交われば問題も発生するが、仲直りの体験や経験として、親子で考えてほしい。すべて学校の責任ではないことを意識してほしいし、先生も自信をもってほしい。 ○問題行動のあるクラスに関して、担任の教師一人で抱え込まないよう、小さなシグナルでも全体で共有していく必要性を感じる。 ○授業のクールダウンのために別室にて対応することは効果的であるが、より一層の人員の拡充を必要とするので、保護者たちでも協力していける仕組み作りがよいのかもしれない。 ○コロナの影響ばかりにしたくはないですが、少なからずあると思います。来年度以降の改善を求めるとともに期待したいです。 ○いじめ防止に向けて、児童・教職員・保護者のみならず、社会福祉の専門家や関係機関とも連携しながら対応している。複合的な課題を抱えているケースも多いと思うので、引き続き関係機関とも連携を密にしながら、一部教職員に過度な負担がかからないよう十分配慮し、子供たちを守り、サポートしていただきたい。 ○小学校における「学習を身に付けさせる」ことよりも重要なポイントだと考えています。いじめ・不登校（登校渋り）が多いことは馬三に限ったことではなく、これまで通り「個々のケースに即した対応」を進めていくことでよろしいかと思います。個人情報の問題もありますが、コミュニティ・スクールを始め、校外組織（民生委員）とも必要に応じて連携できるとよいのですが。 ○教員が多忙で、心の余裕が少ないことが見受けられる。 ○全体の中で、学校はよくやっていると思う。 ○いじめの問題は以前から取組がされ、現在も集中的に取り組んでいただいていると思うが、残念ながら現実的に大きな問題になってきているため、これまでの方法の見直しを考えていただけたらと思う。学校側でトラブルの状態の認識をされても、保護者への通達が遅い・されていないという意見もあり、家庭への連携について見直しを図っていただきたく思う。 ○ふざけ合いの中でも、たたく・こづく・押す・蹴るなどはもちろん、たたくふりをする・からかう・嫌なことを言う・命令をするなど、ちょっとしたことがトラブルやいじめに発展する可能性があることをきちんと児童に伝え続けてほしい。 ○対策①「どんな学校・クラスにしたいか」などのスローガンやポスターを、子供たちが作って貼るなどの取組、対策②「アンガーマネジメント」「リフレーミング」を児童に教える研修などを取り入れる（外部講師など） ※「リフレーミング」は、例えば「寄り添いがえし」などと言い換えて、マイナスなことで気持ちが沈んでいる場面などに、どんな風にポジティブになれるような声かけができるかなどを考える、またそういった暖かい言葉を貼り出し、見に見えるようにするという取組をするのもよいのではないかと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		各教科や学級活動などで話し合い活動を通して自他の考えを尊重し合う態度を育てる。	4：全教員取り組んだ。 3：90%以上の教員が取り組んだ。 2：80%以上の教員が取り組んだ。 1：取り組んだ教員が80%以下であった。。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	児童向けに行うアンケートで「運動が好き」と回答した児童の割合 （令和3年度の割合は90．0%、令和2年度の割合は91．5%）	4：93%以上 3：90%以上93%未満 2：85%以上90%未満 1：85%未満	2	○健康に対する関心を高めるために、年度初めに養護教諭から保健室の使い方についてオンラインで指導した。また、全校朝会で、内科校医や歯科校医の先生方から、健康についての話を聞く機会を設けた。 ○ゲストティーチャーとしてお魚博士を招いた。2年生が「お箸の教室」で箸の使い方を学び、5年生がカツオの一本釣り体験をしたり、カツオ節を削ったりした。1年生は漁港から届いた約50種類の魚を見たり、触ったりした。貴重な体験を通し、食育を推進している。 ○感染症予防のため、元気アップタイムでは持久走の代わりに縄跳びを行った。 ○児童アンケート（780名中714名回答で回答率は91．5%）で「運動が好き」と回答した児童の割合は87．0%だった。その結果、成果指標の段階は2である。令和元年度から3年連続して数値が下がってしまった。 ○体力向上に関しては、感染症予防のために、約3年に渡って活動制限が多かったので、来年度は体力向上部を中心に活動計画を見直す。その際、校舎改築工事による制約が考えられるが、仮校庭だけでなく、屋上や体育館なども活用して計画を立てる。	A	11	○校庭が狭くなる中でいろいろなことを考えており、生徒が楽しみにしていると思う。 ○休み時間の過ごし方（コロナ対応）や、改築工事で校庭が狭い等、マイナス環境の中であっても、青少対ドッジボール大会で入賞する等の成果があったことは、もっと評価してよいと感じます。 ○コロナ禍、校舎改築工事と、不利な条件下ではあるが、「運動大好き馬三の子」のスローガン通り、様々な工夫をしている。 ○コロナの影響は大きいと感じます。鬼ごっこ等接触を避ける活動が中心になっているため、スポーツの活動制限はかなりあったと思いますが、来年度以降は改善されると思われます。 ○今利用できる施設を最大限活用して児童の体力向上に結びつけたい。お父さんの会でも定期的に行える体を動かすイベントを企画するなどして協力したい。 ○健康である必要性の理解の基礎になる年代である。学校の努力とともに、家庭での責任も含めて目指してほしい。 ○子供たちがそれぞれの得意な能力を伸ばしていけるとよいなと感じます。 ○目標に対する取組は適切に実施されていたと思います。 ○運動が得意ではない子、苦手な子に、遊びを通した運動などで、毎日少しでも楽しく取り組み、それを記録に残していくという形ができればよいのではないかと思いました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		児童の健康・体力向上に向けての取組を組織的に行う。	4：学期1回以上行った。 3：年2回行った。 2：年1回行った。 1：実施しなかった。	4							
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」の項目の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合 （令和3年度の割合は91．0%、令和2年度の割合は93．2%	4：93%以上 3：90%以上93%未満 2：85%以上90%未満 1：85%未満	2	○学校公開や学校行事のアンケートについては、全教職員で回覧し、今後に生かしている。 ○保護者アンケート（780名中582名回答で回答率74．6%）の「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合は87．9%だった。成果指標の段階は2となってしまった。昨年度と比べると、残念ながら3．1ポイントも下がってしまい、一昨年度と比べると、5．3ポイントも低い結果となった。 ○2学期末に実施した保護者向けと児童向けのアンケートについては、細かく分析した。良質な教育環境にしていくために、全教職員で情報を共有し、新年度の計画作成に生かしていく。いただいた御意見等については、内容別に分類し、質問への回答や今後の対応策についてまとめ、今年度中に保護者向けに配信する。	A	9	○日々先生方は子供たちのことを考え、一生懸命に御指導くださっていることに間違いないと思うが、御家庭まで届いていないのは残念に感じた。 ○学校の先生よりの指導を、さらに効果的に伝えるのは、家庭の連携と思われます。連携とは、学校からの一方的なものではなく、家庭よりの歩み寄り、理解の努力の必要性を実感してほしい。 ○馬三小でのサポートルームの活用の広がりに意義を感じる。それぞれの児童の個性にピンポイントでトレーニングを行えるシステムと、親・サポートルーム・担任の連携は効果的に思う。 ○教室環境を整えるという点で、校内清掃の機会を増やしていくのが有効であるように感じる。来年度以降はコロナ前に近付けていくことも必要だと思います。 ○2学期以降は工事が始まったので、いろいろな面での指導が増えてくると思いますが、子供たちはちゃんと聞いて守っているのではと感じます。 ○アンケートの自由記述欄に183名の保護者から回答を得ている。それをオープンな形で活用し、よい教育環境づくりに生かそうと努力している姿勢が感じられる。全教職員での回覧、質問や要望への回答は引き続き継続してもらいたい。 ○今期大きな特徴である「良質な教育環境が結果的に作れなかった」ことがここにも表れているように感じます。繰り返しになりますが、これまで通りの対応を進めていただきたいと感じます。 ○今年度中の回答（指針）は、保護者への安心にもなるので、是非お願いいたします。 ○教員の余裕がもう少し必要かと思う。 ○教職員の協力・団結が見られ、生徒への愛情と思えます。 ○目標に対する取組がどのようにされていたかが、保護者に十分伝わっていなかったように感じます。先生方が日々研鑽を積まれている内容についてお知らせいただく機会などがあるとよいように思います。 ○プラン2で提案したような児童一人一人のフィードバックがツールを使ってリアルタイムに保護者に届くと、より一人一人のことを見ていただいていると感じられるのではないかと思います。 ○教育環境づくりという目標に対して、取組指標に教員の指導力向上が多く上がっていますが、清掃の取組や使いやすく片付けやすい共用品の管理方法を考えるとか、くつ箱や棚などを塗り直したりするなどの体験をするなど、物を大切にしながら環境を整える力を子供たちに身に付けさせていくというのもよいかと思いました。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		ユニバーサルデザインの視点で教室環境を整える。	4：全教員が取り組んだ。 3：90%以上の教員が取り組んだ。 2：80%以上の教員が取り組んだ。 1：取り組んだ教員が80%以下であった。	4							
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「自分は学校の教育活動に協力している」の項目の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合 （令和3年度の割合は85．8%、令和2年度の割合は84．3%）	4：87%以上 3：82%以上87%未満 2：77%以上82%未満 1：77%未満	3	○今年度から正式に始まった大田区コミュニティ・スクールとして、年間で6回の学校運営協議会を計画した。1月までに5回の学校運営協議会を開き、熱心に熱議をしていただいた。いただいた意見を教育活動に生かしている。2月の第6回学校運営協議会で、来年度の学校経営計画を承認していただく予定で進めている。 ○大盆踊り大会やサマーフェスタ、餅つき大会など、感染予防対策のために中止となった活動は多いが、「今何ができるか」という前向きな意識をもって計画を進め、地域学校協働活動に取り組んだ。 ○学校からの情報発信は、経営支援部が中心となってホームページを更新している。また、2学期には3年ぶりに平日の学校公開を行うことができた。 ○保護者アンケート（780名中582名回答で回答率74．6%）の「自分は学校の教育活動に協力している」の回答での肯定的評価（4段階でA・B評価の合計）の割合は84．1%だった。成果指標の段階は3であるが、昨年度と比べると1．7ポイント低い結果となった。 ○今後、地域学校協働活動として何ができるかについても学校運営協議会で検討を続けている。具体的な活動案も提案され、来年度の実施に向けて進めていく。	A	11	○80%以上の御家庭で「協力している」という旨の回答をいただけるのはすばらしいと感じます。 ○保護者会の出席率を上げる。少しずつでもよいので、声を掛け合い、出席率を上げる。保護者会の運営に必要であれば、学校運営協議会のメンバーを入れる。 ○コミュニティ・スクールに参加して感じたことは、学校・地域・保護者・PTA、様々な関係者が参加しているが、その連携までは今までは上手にはできていなかったのかもしれない。参加が容易な方法「LINE」や「HP」等でみんなが共通の情報を取得しやすくしていくことが必要だと強く感じる。お父さんの会としても、PTAの負担を軽減するという観点からも積極的にイベントを行っていきたい。 ○学校運営協議会での意見を学校運営に取り込んでいただけるよう、子供たちにとってのよいことを考えていきたいと思います。工事前に「いおの家」の公開をしていただけてよかったと思いました。 ○本項目は我々学校運営協議会委員にも関連するので、令和4年度（区内5校でのスタート）初年度の活動を基に、次年度『どう形にしていくのか』を考えていかねば・・・と考えています。対保護者に向けても、活動をより周知いただくことで、滅益保護者も取り込んだ生きた活動にすることができると考えます。我々も頑張ります。 ○学校は地域との交流に最大限協力しています。 ○学校運営協議会については、今年度は「お互いを知る」「考えや状況を理解し合う」ところに留まったように思いますが、何かをしていきたいという気持ちは十分に委員の中で共有できたと感じています。来年度は具体的な形の活動に取り組んでいけたらと思います。 ○「地域の方が最近のPTAを知っていただく」、また、「PTAが地域のことを知る」、そこから取り組んでいき、子供たちを見守っていく幅を広げ、豊かな人間関係が広がるようにしていただけたらと思います。
		学校運営協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4							
		地域学校協働本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		家庭学習の習慣が身に付くように、家庭への啓発を行う。	4：年度間に3回以上行った。 3：年度間に2回行った。 2：年度間に1回行った。 1：実施しなかった。	4							
		学校運営協議会を開き、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	4：「おおむねできた」と全委員が回答した。 3：80%以上の委員が回答した。 2：60%以上の委員が回答した。 1：60%未満であった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。